

全日本プロバス協議会

新執行部初の常任理事会、北九州で開催

全日本プロバス協議会の2018年度常任理事会が5月29日、北九州市小倉北区の「湖月堂」3階会議室で開催されました。新執行部初の常任理事会で、常任理事8名中6名が参加しました。

常任理事会は古賀会長挨拶の後、来年8月に青森県五所川原で開催される第9回総会&青森大会の開催準備状況報告のほか、全日本協議会の組織の整備、支出に関する基本的ルール、それに来年度の活動計画などを決定。全日本協議会が抱える様々な問題点について熱心に協議しました。以下は、その報告です。

なお、常任理事会には全日本プロバス協議会事務局幹事3名、北九州プロバスクラブ役員5名がオブザーバーで

参加しました

(松本忠・松本 中)



(写真左) 常任理事会

(写真右)

後列＝事務局幹事

左から住吉育代、中山正英、
安高洋一

前列＝常任理事

左から竹原英作、島村吉三久、古賀靖子、川端崇且、松本忠、熊本國勝(以上敬称略)



第9回総会は来年8月8日青森県五所川原で

全日本プロバス協議会の第9回総会 & 青森大会は、来年の2020年(令和2年)8月8日(土曜)、青森県五所川原市のふるさと交流圏民センター「オルテンシア」で開催されます。五所川原プロバスクラブの主管で、この日全日本協議会副会長の島村吉三久様(五所川原ク)から概要の説明がありました。

総会は午後2時から3時30分まで開かれ、引き続いての記念講演の後、午後4時40分からプラザマリューで交流会(会費1万円)があります。さらに夜の7時から9時まで、呼び物の立佞武多(たちねぶた)見学会(栈敷席料3千円)が計画されています。

島村副会長は「できるだけ多くのプロビアンに参加していただきたい。8月8日夜の宿は130人分確保しています」と語っています。

宿の予約申し込みは9月10日から来年5月29日まで、フラワー観光(〒036-8053 弘前市大字和泉2丁目1-1 ☎0172-26-2113)へ。8月8日は青森空港並びに新幹線の新青森駅に到着時間に合わせて会場行きバスを用意するそうです。

また、青森大会自体の問い合わせ先は五所川原プロバスクラブ実行副委員長松山栄一様(五所川原PB会長、携帯☎090-1493-7306)です。

全日本プロバス協議会の会員名簿と組織を整備しました

昨年12月2日に全日本プロバス協議会事務局を立ち上げた新執行部は、運営の基本となる会員名簿を整備しました。その結果、これまで設立されたクラブ数は117クラブ、連絡可能なクラブ数は90クラブ、2018年度の会費を納入した会員クラブは61クラブでした。

また、全日本プロバス協議会の組織を親クラブであるロータリークラブの地域

割に連動するよう組み換えました。その上で、ブロック、地域区分ごとに、担当する常任理事、理事を決めました。それぞれの担当ブロック・地区内で、会員クラブなどの情報を収集したり、会費未納クラブへの協力依頼、さらには新プロバスクラブ誕生へのお手伝いなどをしていただくこととなります。ブロック・地域区分は別表をご覧ください。

支出に関する基本ルールを決定

2018年度から賛助会員制度が導入され、2019年度から年会費が1万円に値上げされました。これに伴って支出もガラス張りにしようと、内規「支出に関する基本的ルール」を常任理事会で決定しました。全日本プロバス協議会の将来にわたる財政運営の在り方をにらみながら、執行部による恣意的な支出や、会員クラブ間で不公平感が生じないようにするのが狙いです。具体的には、

- ① 総会、常任理事会、理事会出席に伴う旅費、宿泊費は常任理事、理事を含め全て個人負担とします。
- ② 会長、副会長、幹事長が、会員クラブ等との交流を深めるために周年事業、各種大会、会議等に出

席した場合、旅費の一部(往復旅費実費の半額、上限3万円)のみを補助します。

- ③ 全日本の理事経験者が死亡した際、所属会員クラブ会長から申請があった場合、弔電を打ちます。
- ④ 新規創立クラブには祝電と祝い金(1万円)を贈ります。
- ⑤ ブロック交流会や、周年記念・祝賀会を実施する会員クラブには全日本協議会会長名の祝電を打電します。
- ⑥ 総会開催クラブに開催費を含め10万円を支給します。

以上は、財政状況を見ながら必要に応じて常任理事会で改定することができるようにしています。

2018年度の活動報告をしました

常任理事会には、2018年度(新執行

部が誕生した昨年12月～今年5月)の

活動報告が行われました。

昨年12月2日に北九州プロバスクラブ内に全日本プロバス協議会事務局(幹事6名)を立ち上げ、年度内に事務局会議を20回開催し、次の活動を行いました。

まず、今年1月1日付で、前会長中村實様、前副会長立川富美代様、前幹事長森山功様の3名を顧問に委嘱。会員クラブ向けには「全日本プロバス協議会

ひろば」第1号、「全日本プロバス協議会ニュース」No. 1を発行、常任理事、理事対象の「持ち回り理事会」を5回開催しました。他に、今年5月、北九州で常任理事会を開催したばかりです。

「ひろば」「ニュース」「持ち回り理事会」ともに好評で、常任理事からも「印刷して例会時に会員に配布している」などの声も聞かれました。

2018年度の賛助会員は25個人、5団体

全日本プロバス協議会の2018年度(平成30年度)の収支実績は9月の理事会で報告しますが、年会費3,000円×61クラブ=18万3000円ではたちまち赤字に陥りました。1月に賛助会員を募集、拠出していただいた協賛金があって、やっと活動を継続することができました。

その2018年度の賛助会員は、個人会員25名(うち10万円以上拠出していただいた永久会員は2名)、団体会員は5団体で、協賛金総額は56万5000円でした。賛助会員のお名前は次の通りです。(敬称略、申し込み順、カッコ内は所属プロバスクラブ名)

[永久会員]▽山内和夫(旭川)▽古賀

靖子(北九州)

[個人会員]▽森山功(横濱)▽松本忠、竹原英作、中山正英、安高洋一、住吉育代(以上北九州)▽中村實(横濱)▽川端崇且(大阪)▽島村吉三久(五所川原)▽田口隆夫(鈴鹿西)▽北島保和、植田佐世子、米谷元則、神田澄男(以上北九州)▽鈴木久男(びわ湖大津)▽白石孝祐(北九州)▽馬場康博(旭川)▽正親睦弘(鎌倉)▽岩城孝子(横濱)▽池田成彬、大川力(以上北九州)▽熊本國勝(奈良)▽滝川益男(東京多摩)

[団体]▽横濱グリーン▽堺▽横濱▽松阪・鈴▽旭川

2019年度は、会員増強にも挑戦しよう

2019年度(令和元年度)の活動計画案も9月の理事会に提案します。第一に掲げるのは、青森県五所川原で開催される全日本プロバス協議会の第9回総会&青森大会の成功へ向けての取り組

みです。

次いで、2018年度はメール等を活用して会員クラブの情報を交換し、周年行事に参加して人的交流を図りましたが、それらの活動を通じて浮かび上がった

のは会員増強への希求でした。このため2019年度は、全日本協議会だけでなく、各会員クラブの会員増強をも目指したいと思います。

具体的には、親クラブであるロータリークラブと協力体制が取れないか、全日本協議会のスケールメリットを活用して会員クラブ相互による会員紹介システムが作れないかなどを探っていくことにしています。また、9月に発行する「全日本

プロバス協議会ひろば」で会員増強特集を組む予定ですが、会員クラブそれぞれが発行している月報や会誌、ひろば等をも含めホームページでネット化できないかも探っていきます。

なお、第8回総会で決定した2019年度予算は、賛助会員による協賛金の拠出や上記活動を支える支出等も必要なことから実情に合わず、9月の理事会に修正予算案を提案する予定です。

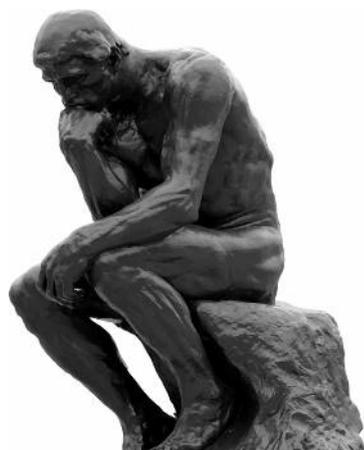
「全日本プロバス協議会」の在り方を協議

昨年11月の第8回総会で、会則第2条目的の「社会的地位の向上に努める」を「社会的認知度の向上…」に直した方が良いとの公開質問状が提出され、新執行部に託されました。またその後、全日本プロバス協議会の事務局を「本部事務局」と呼ぶことへの疑問が事務局に寄せられました。

今回の常任理事会で、これらの提案について意見交換しましたが、「社会的地位の向上」か「社会的認知度の向上」かは意見が分かれました。また「本部」

の呼称に関しては、事務局では「本部」の呼称をやめるほか、全日本協議会が事業に取り組んでいないことから議案書等に出てくる「事業計画」「事業方針」の「事業」を「活動」と改めることとしました。

意見交換で、「全日本プロバス協議会は何もしない方が良いということで発足したが、現在では情報交換を第一義に、会員クラブへの教育、指導などの必要性も求められている」などの意見があり、この問題に、会則の再検討も含め、じっくり取り組んでいくことにしました。





第9回近畿プロバスクラブ交流会報告

姫路南プロバスクラブ 幹事 岡本 浩一

梅雨入りも間近の6月12日、姫路プロバスクラブ、姫路南プロバスクラブがホストクラブとなり表記交流会が開催されました。

大会には、全日本プロバス協議会から古賀靖子会長をはじめ7名の役員の方々をご参加いただき、近畿ブロックから11クラブ80名のプロビアンが集いました。

開会点鐘で開会、国歌斉唱、そして姫路南プロバスクラブ浅江季典会長の歓迎の挨拶、全日本協議会・古賀会長の挨拶、来賓祝辞・祝電披露と続き参加クラブ紹介の後、大阪・奈良・淡路各プロバスクラブの活動報告が行われました。

また、次回第10回の交流会をお世話いただく堺プロバスクラブ、ご本人は体調不良のため欠席されましたが、堀内幸子会長の挨拶を青木定治副会長が代読されました。

全日本協議会・川端崇且副会長のまとめで第1部交流会は終了。

第2部は講演会で、姫路市立城郭研究室の三角菜緒氏による「姫路城を学ぶ」と題しての講演会が行われ、スクリーンに映し出される映像を見ながらの話で、姫路城についてよく知ることが出来ました。

第3部の懇親会に入り、参加者の中で6月が誕生月の8名の方に、花の小鉢をプレゼント。全日本協議会中村實顧問の乾杯の発声で懇親会スタート。歓談の続く中、半ばには南プロバスクラブ伊藤紘一郎会員による「ブンガワンソロ」他の歌声が響き、また、姫路プロバスクラブ会員により「会歌」が披露されました。続いて参加者全員で「故郷」を合唱。最後に全日本協議会森山功顧問の閉会の言葉で、名残を惜しみながら懇親会は終了しました。



また、終宴後、事前に希望を聞いていました「お城見学」の方々には姫路城へ。皆さん、ガイドの説明を聞きながら城内を散策され、天守閣まで登られたそうです。



東京多摩プロバスクラブ



創立 15 周年記念式典・祝賀会のご報告

東京多摩プロバスクラブ 副会長 大澤 亘

東京多摩プロバスクラブは5月22日(水)に創立15周年記念式典と祝賀会を市内の複合文化施設「パルテノン多摩」を会場として開催しました。

当日は全日本プロバス協議会から古賀靖子会長(写真右)と松本忠幹理事長が北九州市から駆け付けていただき、近隣からも八王子、日野、横濱、鎌倉、埼玉浮き城の各プロバスクラブ会員があわせて約20名ご出席いただきました。多摩市からも市長、市議会副議長、東京多摩ロータリークラブ会長その他関係諸団体の代表者が出席されました。



午前中は館内会議室で古賀会長、市長、多摩ロータリークラブ会長の祝辞をいただき、澤雄二会長による15年間の映像付き活動報告、高村弘毅会員(元立正大学学長)による水資源に関する講演などを行いました。

会議室内の壁面には1987年に当館を訪れた夭折の画家キース・ヘリングの写真と山田正司会員が描いた「多摩プロバスかるた」の全絵札の原画をパネル展示しました。午後は同階の別施設で女性シンガーソングライターの歌を交えた祝賀会で各クラブの交流を深めました。

祝賀会終了後は同階にあるマジックサウンドルームで自動演奏楽器とオルゴールを視聴していただき、最後にサンリオ・ピューロランドのキティちゃん関連グッズをお土産にお持ち帰りいただきました。



祝賀会場に隣接した多摩中央公園の緑を背景に記念撮影



六ヶ所プロバスクラブ

創立 10 周年式典・祝賀会報告

六ヶ所プロバスクラブ 相澤 文雄

5月25日、初夏の陽気に包まれた青森県六ヶ所村におきまして、六ヶ所プロバスクラブ創立10周年式典・祝賀会が開催されました。

式典には、はるばる北九州より全日本プロバス協議会会長の古賀靖子様をはじめ同協議会理事の岩城孝子様(横濱)、五所川原プロバスクラブの皆様、国際RC第2830地区ガバナー今井高志様、全員登録をいただきました地元六ヶ所RCの会員の皆様等総勢40名のご参加をいただきました。

式典では、当クラブ会長 金澤光秀の挨拶、古賀会長からの祝辞に続き、記念事業として行った“枝垂桜”の植樹について実行委員長の種市秋光が発表しました。その後、記念講演として、地元郷土館長の鈴木浩様から「六ヶ所村の宝探し」と題し、名馬の産地として栄えた村の歴史等について興味深いお話をいただきました。

次いで行われた祝賀会では、五所川原プロバスクラブ松山栄一会長からユーモアたっぷりの挨拶とともに、来年のプロバス全国大会が青森県五所川原市で立佞武多の開催に合わせ8月に行われるとのご報告がありました。限られた時間ではありましたが、花美流舞会様の祝舞を拝見しつつ、地元産食材を用いた料理や六ヶ所村特産の長芋焼酎“六趣”を召し上がっていただきながら参加者同士の親交を深めました

。

